

日本共産党東京都議団の清水ひで子政調委員は14日、文科科学省の航空機モニタリング調査で高い放射線量が検出された奥多摩町で線量を測定しました。みねざき拓実・党町住民運動部長(町議候補)が同行しました。

東京・奥多摩町で測定 清水都議ら 観光地なども

文科学調査では同町の山間部など広範囲で、毎時0.2〜0.5μSvを検出。町民からは「食堂を経営しているが、町内の食材を使ってよいのか」などの不安が広がり、情報開示と対策を求める声が出ています。清水氏は、住宅地や観光地、林道沿いなどで測定。標高の高い場所では毎時0.12〜0.15μSv、住宅地では0.06〜0.10μSvと、都心とほぼ同程度を検出しました。



放射線量を測定する清水(右)、みねざき両氏＝14日、東京都奥多摩町

清水氏は「観光業を営む人は『文科省の発表をテレビで見ても予約をキャンセルした人もいる』と話しました。文科省調査で高い線量が出た埼玉県境に近い地域や観光地の測定も重要です。子どもの健康と環境を守るためだけに、観光対策としてもきめ細かく線量を測定し公表すべきだと感じました」と語りました。